

エコアクション21

環境経営レポート

三興建設株式会社



平成31年度 防国災防第955-4-1号 国道222号 赤松工区 法面補修工事

2023年度

運用期間 2023年 6月 1日 ～ 2024年 5月31日

2024年 6月 30日 発行
2024年 9月 12日 改訂

【 目 次 】

項目No	項 目 名	レポートの 要求No	ページ
	表 紙	—	1
	目 次	—	2
1	組織の概要及び対象範囲	①②	3
	1) 事業者名及び代表者名 2) 所在地 3) 環境管理責任者及び事務局及び連絡先 4) 事業創立年月日 5) 事業活動の内容 6) 事業規模 7) 推進組織図 8) 対象範囲		
2	環境経営方針	③	4
3	環境経営目標	④	5
4	環境経営目標の実績	⑥	6
5	環境経営計画と取組結果とその評価	⑤⑥ ⑦	7
6	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	⑦	8
6－2	次年度の環境経営目標(第二次)詳細	⑦	8－2
7	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに 違反、訴訟等の有無	⑧	9
8	代表者による全体評価と見直しの結果	⑨	9

※レポートの要求Noとは、建設業者向けがイトライン・環境活動レポートの
レポート作成の番号①～⑨のこと。

1. 組織の概要及び対象範囲

1) 事業者名及び代表者名

三興建設有限会社
代表取締役 斯波 厚幸

2) 所在地

本社事務所 〒889-2402 宮崎県日南市北郷町郷之原乙1315番地
資材置場 〒889-2402 宮崎県日南市北郷町郷之原下栴檀乙110-1

3) 環境管理責任者及び事務局、担当者氏名・連絡先

EA-21 責任者 植田 悠
EA-21 事務局 斯波 孝子

連絡担当者 植田 悠
TEL 0987-55-2058
E-mail sankoukensetu7538@abeam.ocn.ne.jp

4) 事業創立年月日

昭和58年10月1日〔創立から40年〕

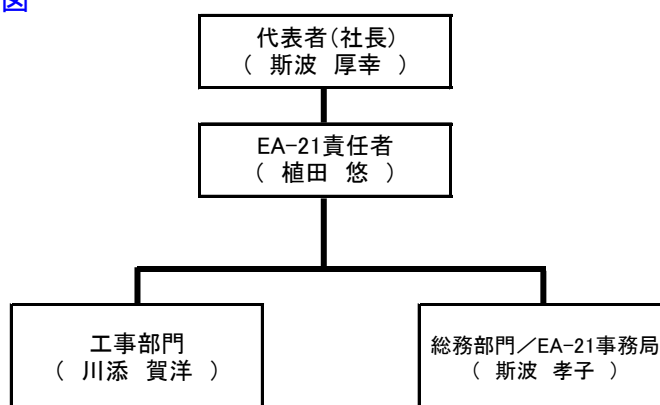
5) 事業活動の内容

建設業(土木工事業、とび・土工工事業)

6) 事業規模

項目	単位	2020年	2021年	2022年	2023年
工事件数	件	35	41	29	31
従業員数	人	16	15	15	18
床面積	m ²	83.03	83.03	83.03	83.03
敷地面積	m ²	1,173	1,173	1,173	1,173

7) 推進組織図



8) 対象範囲 (全組織・全活動)

組織・・・ 本社事務所、資材置場
活動・・・ (5)事業活動の内容全て
レポート対象期間 表紙に掲載
レポート発行日 表紙に掲載

2. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

三興建設有限会社は、地域との共生を図り、地球環境の保全とその重要性を認識し、豊かな自然を次世代に引き継ぐ為、人間育成と共に地球にやさしい企業を目指し、環境に配慮した事業活動を行います。

1. 三興建設有限会社は、建設工事の事業活動を通じて、環境経営マネジメントシステムを構築し、環境経営目標・環境経営計画を定め、継続的な改善に努めます。
2. 関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・団体・地域の要請に協力します。
3. 当社の事業活動に於いて、環境に与える影響を削減するために、次の事項に対して優先的に取り組みます。
 - ① 化石燃料、電気使用量の節減による、二酸化炭素排出量の削減。
 - ② 事業活動工程から排出される廃棄物の削減とリサイクル推進。
 - ③ 節水活動による水使用量の削減。
 - ④ 環境に配慮した施工計画や材料等の提案を積極的に行います。
 - ⑤ 環境保全に関して、地域での社会貢献活動に努めます。
4. 新技術活用や創意工夫、人間育成で安全且つ効率的な施工に努めます。

この環境経営方針は、当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

2021年 5月 1日制定
三興建設有限会社
代表取締役 **斯波厚幸**

3. 環境経営目標

当社の環境経営目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定いたしました。
なお、目標設定の基準は2020年度(20年6月～21年5月)のデータを使用しています。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実 施 区	年 度 別 環 境 目 標			
			基準値 2020年度 の実績	2021年度 (2021年6月～ 2022年5月)	2022年度 (2022年6月～ 2023年5月)	2023年度 (2023年6月～ 2024年5月)
省エネ ルギー 項目	1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	事務所	4,444.9	4,400.5	4,378.2	4,356.0
		現場	117,272.8	116,100.1	115,513.7	114,927.2
		全社	121,717.7	120,500.6	119,891.9	119,283.2
	①電気使用量の削減 (kWh)	*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		事務所	4,094.8	4,053.9	4,033.4	4,012.9
		現場	0.0	0.0	0.0	0.0
		全社	4,094.8	4,053.9	4,033.4	4,012.9
		*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		②ガソリン使用量の削減 (L)	事務所	1,261.1	1,248.5	1,242.2
	現場		7,792.7	7,714.8	7,675.8	7,636.8
	全社		9,053.8	8,963.3	8,918.0	8,872.7
	③軽油使用量の削減 (L)	*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		事務所	0.0	0.0	0.0	0.0
		現場	38,447.2	38,062.7	37,870.5	37,678.2
		全社	38,447.2	38,062.7	37,870.5	37,678.2
2 廃棄物の削減	*削減率%⇒			1.5	2.0	
	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	全社	2021年度実績 115.3kg	分別・計量で実績 把握 115.3kg	113.6	113.0
②. 建設副産物再資源化率向上	現場	1394.6トン 〔99.6%〕	環境経営計画を遵守し、 再資源化率を向上させる			
3. 水資源使用量の削減 (m ³) (2021年度実績66.0m ³ に変更)	*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
	事務所	66.0	65.3	65.0	64.7	
	現場	0.0	0.0	0.0	0.0	
	全社	66.0	65.3	65.0	64.7	
4 有益な環境活動	4-1. 環境配慮型施工の推進 (現場周辺に配慮して 創意工夫した事を含む)	全社	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守
	4-2. 環境保全活動の推進 (ボランティア活動)	全社	0回	3回以上/年	3回以上/年	3回以上/年

*2021.5.21作成要点 ・2020年度の実績を基準値として、削減率を1.0% 1.5% 2.0%として3ヶ年の目標値を設定した。
・全社CO2排出量は、電気以外は2017年版環境への負荷チェックと同値の排出係数で算出した。
・電気のCO2排出係数は、2021年(令和3年).1.7 環境省公表・九州電力調整後のメニューBの係数を採用。
*2022.7.21作成要点 ・一般廃棄物は、2021年度の実績を基準値として、2022,2023年度の目標値を設定した。
・水資源は、2021年度の使用量が想定以上だったため、2021年度を新基準値として目標を設定した。

※化学物質(PRTR制度対象化学物質)の使用、購入、保管、移動ともありません。
※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した (排出量(kg-CO₂) = 使用量(A)×排出係数(B))

	単位	使用量(A)	排出係数 (B)	
購入電力	kWh		0.371	(kg-CO ₂ /kWh)
ガソリン	L		2.32	(kg-CO ₂ /L)
軽油	L		2.58	(kg-CO ₂ /L)

4. 環境経営目標の実績

環境経営目標に対する達成状況は以下の通りです。

実績値は、2023年度期間(2023年6月～2024年5月)の12ヶ月間と、目標値は基準年度2020年度の同期間の削減率から算出した合計の値と比較する。

取 組 項 目		実施区	2023年度目標値 (2023年6月～ 2024年5月)	2023年度 実績 (2023年6月～ 2024年5月)	達成率	判定
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)		事務所	4,356.0	3,908.5	111.4%	○
		現場	114,927.2	87,989.1	130.6%	○
		全社	119,283.2	91,897.6	129.8%	○
	①電気使用量の 削減 2. 0% (kWh)	事務所	4,012.9	4,043.0	99.3%	×
		現場	0.0	—	—	—
		全社	4,012.9	4,043.0	99.3%	×
	②ガソリン使用量の 削減 2. 0% (L)	事務所	1,235.9	1,038.2	119.0%	○
		現場	7,636.8	4,173.8	183.0%	○
		全社	8,872.7	5,212.0	170.2%	○
	③軽油使用量の 削減 2. 0% (L)	事務所	0.0	—	—	—
		現場	37,678.2	30,351.1	124.1%	○
		全社	37,678.2	30,351.1	124.1%	○
2. 廃棄物の削減 ①一般廃棄物の廃棄量の把握 (kg) ②建設副産物再資源化率向上		①全社	113	123.7	91.4%	×
		②現場	環境経営計画 を遵守	遵守しました (総排出量 14.5 t 再資源化率 77.4%)	—	—
3. 水資源使用量の削減 2. 0% (m ³)		全社	64.7	72.0	89.9%	×
4-①環境配慮型施工の推進		全社	環境経営計画 の遵守 〔年間評価〕	遵守しました	—	○
4-②環境保全の取組推進 (ボランティア活動)		全社	3回以上／年 〔年間評価〕	2回	66.7%	×

※ 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の調整後のメニューBの排出係数0.371を使用しました。

※ 達成率は、項目1～3が、目標/実績 100%以上が評価○で、項目4～が、実績/目標で100%以上が、評価○とする。

【実績の分析と評価】

○当年度の達成状況は、事務所の電気使用量と一般廃棄物と水資源使用量が未達で、他の項目はほぼ達成し、全社CO₂削減はかなり削減でき評価したい。 電気の未達要因はエアコンなどの利用抑制が十分に出来ていなかったことがあげられる。 一般廃棄物は決算が終わり不要な書類の整理で一気に処分したため、第二次中期では廃棄物の目標管理対象を見直したい。 水資源の未達要因は年末年始の掃除や自社での洗車をしたことがあげられる。

●次年度は、第二次中期の策定となるが第一次の3年間の実績を考慮して新基準値、削減率、目標値等、活動計画を見直し検討・設定後、全社員へ周知し目標達成意識を共有し活動していただきたい。

5、環境経営計画と取組結果とその評価

2023年6月1日から～2024年5月31日までの環境経営計画と取組結果は以下の状況です。
[実施スケジュールの年間とは、6月～翌年5月までとする。]

取組項目と活動内容	実施区	実施スケジュール	取組結果	評価
1・二酸化炭素排出量の削減	事務所	①年間 ②7～9月 11～3月 ③年間	夏場の軽装や機械の省電力は十分実施できたが、空調の使用については見直したほうがよいか検討したい。	○
				○
	事務所 現場	年間	ガソリン・軽油についてはどの項目においても、省エネルギーを考えた活動ができていた。	○
				○
2・廃棄物の削減	全社	年間	今年度は前年度と同様に無駄が出ないように裏紙利用などを積極的にしたが、前年度と比べて少し一般廃棄物の排出量が多くなってしまった。	○
				○
	現場	年間	現場での廃棄物は定められた方法で処分した。 次年度からは再資源化率の目標値を設定し率の向上に努める。	○
				○
3水使用量	事務所	年間	前年度と同様に節水のシールを水回りに張り、節水を心がけるよう呼び掛けている。 ①②とも全社員に浸透してきている。	○
				○
4・有益な環境活動	全社	年間	安全訓練として熱中症対策の会議、火災訓練を行った。 工事現場では常日頃、周辺に配慮して機械の使用、作業を行っている。	○
				○
	全社	年間	今回は8月に「道路愛護デー」、1月に「宮崎県法面保護協会ボランティア活動」に参加した。	○
				○

6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

2024年度(2024年6月～2025年5月)の環境経営計画(活動項目と活動内容)は、下記の通り、取組ます。 また、次年度(2024年度)の環境経営目標は、8-2ページに3. 環境経営目標(第二次)の詳細を掲載しています。

取組項目と活動内容		実施区	実施スケジュール
1・二酸化炭素排出量の削減	【電気使用量の削減】 ①パソコン、コピー機等のOA機器は、省電力設定 ②社内ではクールビズ(夏場の軽装等)やウォームビズ(冬季の重ね着等)を推進 ③扇風機の併用や外気の調整等でエアコンの利用を抑制	事務所	①、③年間 ②7～9月 11～3月
	【ガソリン・軽油使用量の削減】 ①車両運行時は出来るだけ早めにアクセルオフしてニュートラル運行を多用する。 ②現場への相乗りを推進している。 ③段取り良い前準備で忘れ物などをなくし、折り返し運行の撲滅を図る。 ④運搬計画や経路を見直し、エネルギー消費の少ない運搬を検討・実施する。	事務所 現場	年間
2・廃棄物の削減	【2-1 一般廃棄物の削減】 ①廃棄物の分別計量と記録〔環境への負荷チェックに入力〕 ②コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小・集約コピーに努める ③詰め替え可能な製品使用推進や使い捨て製品使用の抑制 ④マイ箸、マイボトル運動を展開する(自分のゴミは自ら処理する)	全社	年間
	【2-2 建設副産物の再資源化率向上】 ①資材梱包等は業者へ持ち帰りを依頼する。〔簡易包装のものを優先購入する。〕 ②現場で残余資材が発生したら資材倉庫に持ち帰り分別して保管し再利用を推進する。	現場	年間
3 水 使用 量	【水資源使用量の削減】 ①手洗い時の流し水を短くする。 ②車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめる。	事務所	年間
4 ・ 有 益 な 環 境 活 動	【4-1 環境配慮型施工の推進】 ①環境配慮型の建設機械を使用する。〔排ガス対策型、低騒音型、低振動型、エコ操作型等〕 ②現場の環境上の緊急事態を想定し予防措置を行い、対応手順を作成して事前の訓練を行う。	全社	年間
	【4-2 環境保全活動の取組推進】 ①事務所周辺や現場付近は常に清掃し整理整頓に努める。 ②植林等の環境ボランティアに積極的に参画する。	全社	年間

※次年度(2024年度)は一部見直し改訂したが、途中で不具合等が生じたら期間の途中でも改訂する場合もある。

6-2. 次年度の環境経営目標〔第二次〕

当社の次年度環境経営目標(第二次)は、環境負荷の調査結果により以下のような目標を設定いたしました。
なお、目標設定の基準は2021～2023年度の実績を使用しています。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実 施 区	年 度 別 環 境 目 標				
			基準値 2021～2023 年度の実績	2024年度 (2024年6月～ 2025年5月)	2025年度 (2025年6月～ 2026年5月)	2026年度 (2026年6月～ 2027年5月)	
省エネ ルギー 項目	1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)		事務所	7,724.3	7,647.0	7,608.4	7,569.8
			現場	156,111.1	154,550.0	153,769.5	151,585.8
			全社	163,835.4	162,197.0	161,377.9	159,155.6
			*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
	①電気使用量の削減 (kWh)		事務所	4,876.0	4,827.2	4,802.9	4,778.5
			現場	0.0	0.0	0.0	0.0
			全社	4,876.0	4,827.2	4,802.9	4,778.5
			*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
	②ガソリン使用量の削減 (L)		事務所	2,331.1	2,307.8	2,296.1	2,284.5
			現場	5,576.9	5,521.1	5,493.2	5,465.4
			全社	7,908.0	7,828.9	7,789.3	7,749.9
			*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
	③軽油使用量の削減 (L)		事務所	0.0	0.0	0.0	0.0
			現場	55,493.3	54,938.4	54,660.9	53,839.6
			全社	55,493.3	54,938.4	54,660.9	53,839.6
2 廃 棄 物 の 削 減	①. 一般廃棄物の削減 (kg) ※目標管理対象を 可燃ゴミ・不燃ゴミとした。		*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
			全社	122.4	121.2	119.4	117.0
	②. 建設副産物再生率向上		現場	総排出量49.5トン 再資源化率78.5%	環境経営計画を遵守し、 再資源化率80%以上を目指す		
3. 水資源使用量の削減 (m ³)		*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
		事務所	78.0	77.2	76.8	76.4	
		現場	0.0	0.0	0.0	0.0	
		全社	78.0	77.2	76.8	76.4	
環 4 境 有 益 動 画	4-1. 環境配慮型施工の推進 (現場周辺に配慮して 創意工夫した事を含む)		全社	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守
	4-2. 環境保全活動の推進 (ボランティア活動)		全社	2回	3回以上/年	3回以上/年	3回以上/年

*2024.7.1 作成要点 ・2021～2023年度の実績を基準値として、削減率を1.0% 1.5% 2.0%として3ヶ年の目標値を設定した。
・全社CO2排出量は、電気以外は2017年版環境への負荷チェックと同値の排出係数で算出した。
・電気のCO2排出係数は、2023年(令和5年).12.22 環境省公表・九州電力調整後のメニューBの係数を採用。

★化学物質(PRTR対象化学物質)の使用、購入、保管、移動ともありません。
★二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した (排出量(kg-CO2) = 使用量(A) × 排出係数(B))

	単位	使用量(A)	排出係数 (B)
購入電力	kWh		0.475 (kg-CO ₂ /kWh)
ガソリン	L		2.32 (kg-CO ₂ /L)
軽油	L		2.58 (kg-CO ₂ /L)

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下表のとおりです。

主な関連法規名	遵守事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法(廃掃法)	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源化により得られる資材の使用	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (事務所と建設機械の内、事務所のエアコンが対象)	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	遵守 該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	遵守 該当工事なし

当年度は、遵守状況確認を運用3ヶ月後に実施した結果、違反はありませんでした。
現場での遵守状況は、月1回の安全パトロールや会議等を通じて常に確認しています。
また、監督官庁からの指摘も、地域住民からの訴訟等ありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価項目	代表者による評価と指示(○当年度の評価、●次年度への指示)
①環境経営計画の実施状況	○環境経営計画(兼)実施状況評価表によると、活動計画はほぼ実施されている。 ●次年度(2024年度)は、第二次中期(2024～2026)に当たり、第一次の活動内容と実施状況を省みて見直し項目・活動内容があれば改訂し、全社員への周知を図り2024年度を活動していただきたい。
②環境経営目標の達成状況	○当年度の達成状況は、環境経営目標達成状況管理表によると、事務所の電気使用量と一般廃棄物と水資源使用量が未達で、他の項目はほぼ達成し、全社CO2削減はかなり削減でき評価したい。 電気の未達要因はエアコンなどの利用抑制が十分に出来ていなかったことがあげられる。一般廃棄物は決算が終わり不要な書類の整理で一気に処分したためで、第二次中期では廃棄物の目標管理対象を見直ししたい。水資源の未達要因は年末年始の掃除や自社での洗車をしたことがあげられる。 ●次年度は、第二次中期の策定となるが第一次の3年間の実績を考慮して新基準値、削減率、目標値等を設定し全社員へ周知し目標達成意識を共有し活動していただきたい。
③環境関連法規等の遵守状況	○当社に関連する法規を取り纏め、年間3ヶ月毎に遵守状況を実施したが、関連法規は守られていることを確認した。 ●次年度も関連法規の取り纏めと遵守を継続していただきたい。
④外部からの環境に関する苦情や要望等	○当年度も、外内部からの環境に関する苦情・クレームはなかった。 ボランティア活動としては実績が2回で未達ではあったが、当社としてはよく参加したと評価する。 事務所周辺や現場付近では常に清掃、整理整頓に努めている。 ●次年度も苦情・クレーム無く、出来るだけボランティア活動に参加していただきたい。
⑤環境経営方針	次年度も現行方針を継続する。
⑥実施体制	次年度も現行体制を継続する。
⑦環境経営システム(その他全般について)	特に無し